

PO21R016

2009年3月31日

30代以降の毛穴の目立ちはなぜ生じるのか？ 日照時間が毛穴の目立ちに関係

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：岩崎泰夫）は、1000万件以上の日本人女性の肌データ（※）から、毛穴の目立ちに着目し、日照時間との関連性を調べた結果、30代以降の毛穴の目立ちが紫外線による光老化である可能性があることを見出しました。

※ポーラの個肌対応ブランド「アベックス・アイ」のスキンチェックデータより

毛穴の目立ちは、美しい肌を目指す女性にとって大きな悩みのひとつです。ポーラ化成はこれまでに、毛穴の目立ちには角栓型と老化型があり、若年層では過剰な皮脂等により角栓が形成され、角栓が毛穴につまることで毛穴の目立ちが生じることを明らかにしてきました。（2006年4月発表）しかし、角栓ができにくくなる30代以降の毛穴の目立ちの原因は明らかにされていませんでした。そこで、アベックス・アイの1000万件を超える肌データから、頬の毛穴の目立ちと日照時間の関連性に着目した調査を行った結果（図1）、30代以降では頬の毛穴の目立ちの原因が紫外線による光老化である可能性が示されました。これは、紫外線により真皮のコラーゲン構造が変化することで、毛穴周辺組織の真皮構造に影響を与えている可能性が考えられます。ポーラ化成は、今後さらに研究を進めメカニズムを解明し、製品の開発に応用してまいります。

図1 ①都道府県別の年間日照時間の分布。日照時間の分布を4等分にして色分け。②10代（16～19歳）、③40代の都道府県別の頬の毛穴の目立ち分布。各年代の頬の毛穴スコアの分布を4等分にして色分け

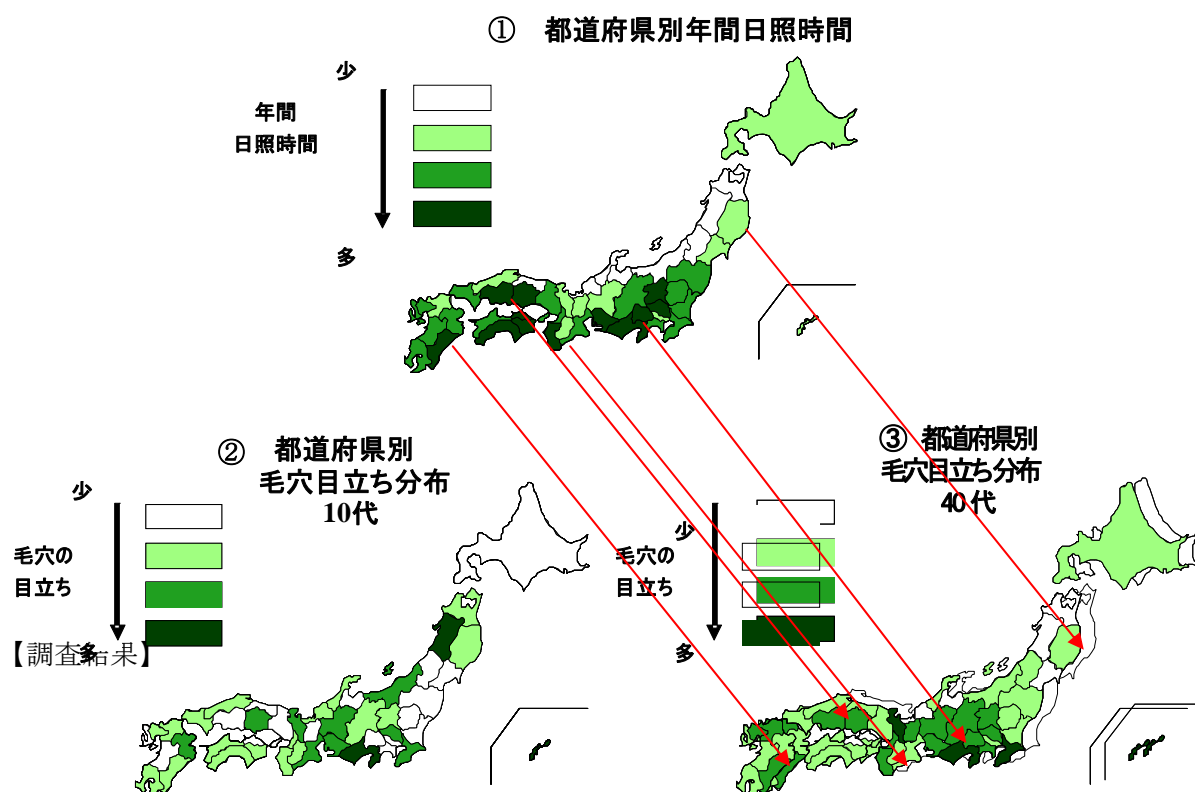
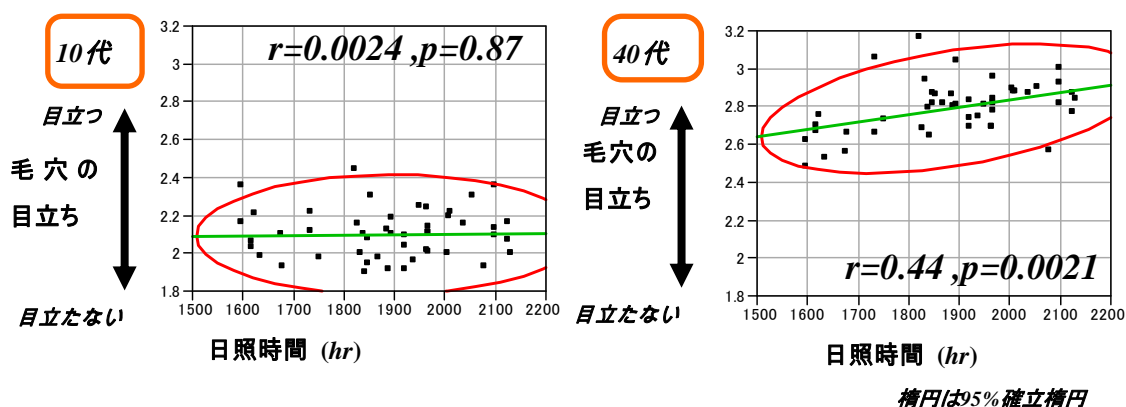


図1で示した、都道府県別の年間日照時間①と10代の頬の毛穴の目立ち方分布②では、地図上での色の分布に類似性が認められませんでした。都道府県別年間日照時間①と40代の頬の毛穴の目立ち方分布③には、色の濃い部分と薄い部分の分布に類似性が認められました。(赤い矢印部分)つまり、日照時間(=紫外線量)が多い地域ほど40代の頬の毛穴の目立ちが大きい傾向が認められました。

さらに詳細な解析を行った結果、10代での頬の毛穴の目立ち具合と日照時間との相関性はみられません。20代後半から30代、40代にかけて相関性が高くなる(相関係数r値が大きくなる)ことが明らかになりました。(図2)

これは、紫外線により真皮のコラーゲン構造が変化することで、毛穴周辺組織の真皮構造に影響を与えている可能性が考えられ、今後さらに研究を進めメカニズムを解明し、製品の開発に応用してまいります。

図2 10代、40代における都道府県別の年間日照時間と毛穴の目立ちとの相関性



ポーラ・オルビスグループは、「世界中の人々に笑顔と感動をお届けしたい」を理念に、化粧品会社7社をはじめとする27社で構成される企業グループです。